

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	卓越大学院プログラム			担当部局庁	高等教育局	作成責任者	
事業開始年度	平成30年度	事業終了 (予定) 年度	令和8年度	担当課室	大学振興課	大学振興課長 古田 和之	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本再興戦略改訂2015—未来への投資・生産性革命— (平成27年6月30日閣議決定) ・未来を牽引する大学院教育改革～社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成～(審議まとめ) (平成27年9月15日中央教育審議会大学分科会決定) ・第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定) ・科学技術イノベーション総合戦略2016 (平成28年5月24日閣議決定) ・経済財政運営と改革の基本方針2016 (平成28年6月2日閣議決定) ・日本再興戦略2016—第4次産業革命に向けて (平成28年6月2日閣議決定) ・科学技術イノベーション総合戦略2017 (平成29年6月2日閣議決定) ・経済財政運営と改革の基本方針2017 (平成29年6月9日閣議決定) ・未来投資戦略2017 (平成29年6月9日閣議決定) ・成長戦略実行計画 (令和元年6月21日閣議決定) ・統合イノベーション戦略2019 (令和元年6月21日閣議決定) ・成長戦略実行計画 (令和2年7月17日閣議決定) ・統合イノベーション戦略2020 (令和2年7月17日閣議決定) ・成長戦略フォローアップ(令和3年6月18日閣議決定) 		
主要政策・施策	科学技術・イノベーション、子ども・若者育成支援			主要経費	文教及び科学振興		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	本事業は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的としている。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した世界に通用する質の保証された5年一貫の博士課程学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を支援する。【定額補助】						
実施方法	補助						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求	
		当初予算	7,413	7,752	6,038	5,033	4,342
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	18	100	100	-
		翌年度へ繰越し	▲ 18	▲ 100	▲ 100	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
	計	7,395	7,670	6,038	5,133	4,342	
	執行額	7,274	7,304	6,036	-	-	
執行率 (%)	98%	95%	100%	-	-		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	98%	94%	100%	-	-		
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
	研究拠点形成費等補助金	5,025	4,337	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。			
	研究拠点形成等業務庁費	5	3				
	研究拠点形成等業務旅費	2	2				
	研究拠点形成等委員等旅費	0.3	0.3				
	研究拠点形成等謝金	0.9	0				
計	5,033	4,342					

活動内容 (アクティビティ)	第4次産業革命の推進、Society5.0の実現に向け、各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を行う大学に対する補助を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	各大学の特色・強みを生かした独自の構想に基づく博士課程の学位プログラムの構築・展開	プログラム実施件数	活動実績	件	26	30	30	-	-	
			当初見込み	件	23	31	30	30	30	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額／実施件数			単位当たりコスト	千円	275,794	243,481	197,756	167,531	
				計算式	千円/件	7,170,634/26	7,304,433/30	5,932,666/30	5,025,918/30	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 8年度	
	国内外のトップ大学、研究機関、民間企業等の多様なセクターと「組織」対「組織」の連携を図り、優秀な教員・研究者・学生が結集した環境において、独創的な教育研究を実施	国際連携に係る海外大学との連携機関数(各プログラムの平均値)	成果実績	機関	9.7	9	9.6	-	-	
			目標値	機関	3.9	5.4	6.2	7.2	9	
			達成度	%	249	167	155	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。									
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 8年度	
	各プログラムにおいて補助期間終了後も人材育成・交流及び新たな共同研究が持続的に展開される拠点を構築	各プログラム運営における外部資金(寄付金収入、産業連携等収入等)の活用状況(各プログラムの平均値)	成果実績	千円	29,762	52,931	82,699	-	-	
			目標値	千円	28,941	47,566	74,324	95,133	124,591	
			達成度	%	103	111	111	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。									
活動内容 (アクティビティ)	第4次産業革命の推進、Society5.0の実現に向け、各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を行う大学に対する補助を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	あらゆるセクターで活躍できる博士人材を輩出するための、持続的な拠点運営のサイクルを構築	プログラム修了学生数	活動実績	人	-	-	-	-	-	
			当初見込み	人	-	-	-	252	531	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額／実施件数			単位当たりコスト	千円	275,794	243,481	197,756	167,531	
				計算式	千円/件	7,170,634/26	7,304,433/30	5,932,666/30	5,025,918/30	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 8年度	
	あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成	プログラム修了学生の進路決定率(進路決定者数/修了者数)	成果実績	%	-	-	-	-	-	
			目標値	%	-	-	-	95	95	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	卓越大学院プログラム実施状況調査 ※平成30年度から開始した5年一貫の博士課程学位プログラムの構築を目的とする事業であり、現段階においてプログラム修了生の本格輩出には至っていない。令和4年度以降に本格的に修了生が輩出される予定であることから、それ以降の実施状況を調査し、成果実績を把握予定。									
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 8年度	
	あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成	プログラム履修生の国際学会発表数(各プログラムの平均値)	成果実績	件	18.3	13.1	25.5	-	-	
			目標値	件	5.1	11.5	22.2	37.5	54.6	
			達成度	%	359	114	150	-	-	

根拠として用いた統計・データ名(出典)		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。								
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 8年度	
	あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成	プログラム履修生の国際ジャーナルへの掲載数(各プログラムの平均値)	成果実績	件	10.5	18.6	26.6	-	-	
			目標値	件	2.6	7.7	14.5	20.2	29.4	
			達成度	%	404	242	183	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)		卓越大学院プログラム実施状況調査 ※目標値は事業選定大学の事業計画を踏まえて決定。								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	4 個性が輝く高等教育の振興			政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-4_1.pdf				
	施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上			該当箇所	p.4-5				
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-						
			(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:							
		該当箇所								
事業所管部局による点検・改善										
	項目	評価	評価に関する説明							
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は「日本再興戦略」2015/2016等において、形成の必要性が提言された「卓越大学院」を実現するものであり、社会のニーズを反映している。							
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は「日本再興戦略」2015/2016等において、形成の必要性が提言された「卓越大学院」を実現するものであり、国が実施すべき事業である。							
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は「日本再興戦略」2015/2016等において、形成の必要性が提言された「卓越大学院」を実現するものとして必要かつ適切な事業であり、優先度が高い事業である。							
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○								
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	本事業は、公募した上で有識者からなる委員会による公平な審査を経て選定しており、その妥当性や競争性を確保している。							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無								
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、公募した上で、経費面を含め有識者からなる委員会による公平な審査を経て選定しており、かつ実施年度を追う毎に補助金額を逡減することにより、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を行っている。							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認しており、妥当なコスト水準である。							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認しており、妥当なコスト水準である。							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定している。							
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-							
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	補助金を繰越する際は、繰越事由や経費の使途について厳正に確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定している。								
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況、事業目的との整合性、コスト水準等について確認を行っている。								

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	事業の目的である、世界に通用する質の保証された5年一貫の博士課程学位プログラムの構築に対し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成数を定量的成果目標として設定している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	国公立大学を通じた競争的環境の下、海外トップ大学や民間企業等との連携により世界水準の教育研究環境を有する取組を選定・支援しており、効果的な事業を実施している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	本事業は、定量的な活動指標を設定した上で実施しており、活動実績の着実な向上に向けて実施している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	本事業の活動内容を各実施機関において様々な方法により積極的に周知・広報するとともに、本事業の取組の横展開を目的とする一般向けフォーラムを開催すること等により、成果事例の活用促進を図っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	<p>外部有識者により構成される卓越大学院プログラム委員会及び同委員会審査・評価部会により、各採択事業の進捗状況が毎年度フォローアップされるほか、平成30年度に採択された15プログラムに関しては採択4年度目に当たる令和3年度に中間評価が行われ、多くのプログラムが順調に進捗していると評価された。なお、令和4年度には11プログラム(令和元年度採択)、5年度には4プログラム(令和2年度採択)に関して、引き続き中間評価が行われる予定。</p> <p>※卓越大学院プログラム 平成30年度採択プログラム中間評価結果の総括(令和4年3月卓越大学院プログラム委員会) https://www.jsps.go.jp/j-takuetsu-pro/chukan_hyoka/data/h30takuetsu_midterm_result_report.pdf</p>	
	改善の方向性	<p>各採択プログラムに対する日常的な進捗状況の把握、相談、助言等を行うPO(プログラムオフィサー)による積極的なケアを進めるほか、中間評価により抽出された課題含め、各プログラムにおける課題や対応策に関する情報を横展開できる場を設けることにより、より効果的・効率的な事業の運営を図ることとする。</p>	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
の事業一部内改容	令和4年度以降に本格的に修了生が輩出される予定であることから、実施状況を調査し、得られた成果について適切に活用すること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
執行善等改	毎年度実施している事業の実施状況調査により各プログラム修了生に関する内容を確認することに加え、外部有識者からなるプログラム委員会による実地訪問を含むヒアリング等により得られた修了生に関する情報などを、事業成果として積極的に活用することとしたい。		
備考			
<p><平成29年度秋のレビューによる指摘></p> <p>【指摘事項】 「博士課程教育リーディングプログラム」及び「卓越大学院プログラム」については、その違いが必ずしも明確でないことに加え、基本的に、それぞれは各大学が取り組むべき今後の方向性を示したものであり、各大学にそうした取組を行うよう促すことは必要であるが、運営費交付金とは別に、巨額となる国民の税金を投じる意義があるのか、バラマキとなっていないか、といった疑念がある。基本的な考え方としては、将来の受益者となる企業の負担を求めると一つの考え方であり、いずれにせよ、廃止も含めて抜本的に見直すべきである。</p> <p>【対応状況】 「卓越大学院プログラム」については、事業の継続性・発展性の確保のため、事業の進捗に併せて補助金額を減額(4年度目に初年度の1/2以下、7年度目に初年度の1/3以下まで減額)させることを想定し、初年度から一定の学内外資金を活用するとともに、事業の進捗に併せて連携企業等の資金拠出を含む学内外資金を増加させることで、予算額の縮減を図っている。</p>			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	9			
平成30年度	新30-0006			
令和元年度	文部科学省 -	0127		
令和2年度	文部科学省	0125		
令和3年度	2021 文科 20	0130		

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

文部科学省
6,036百万円

業務旅費 0.5百万円
委員等旅費 0.1百万円
謝金 0.1百万円

を含む

第4次産業革命の推進、Society5.0の実現に向け、各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を支援。

【補助金等交付】

A. 国立大学法人等 (17大学30件)

大学において、第4次産業革命の推進、Society5.0の実現に向け、各大学が自身の強みを核に、国内外の様々な機関と組織的な連携を行い、世界最高水準の教育力と研究力を結集した学位プログラムの構築を通じて、人材育成・交流、及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される拠点を形成し、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成を進める取組を推進。

【補助金等交付】

B. 独立行政法人日本学術振興会
99百万円

卓越大学院プログラムの審査・評価等を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

A. 国立大学法人東海国立大学機構

B. 独立行政法人日本学術振興会

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A. 国立大学法人東海国立大学機構			B. 独立行政法人日本学術振興会		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
人件費・謝金	運営人件費(特任教員、事務補佐員等)、RA経費、講演謝金等		428	人件費・謝金	業務担当職員人件費、審査・評価部会委員手当等	56
物品費	設備備品費、運営消耗品費等		324	その他	外注費、印刷製本費、会議費等	26
間接経費	間接経費		299	旅費	会議出席旅費、現地訪問旅費等	16
その他	給付型学生支援経費、外注費等		184	物品費	消耗品費	1
旅費	外国旅費、国内旅費、招聘旅費		105	-	-	-
計			1,340	計		99

